

# 施策評価シート

評価年度	平成29年度	事業実施年度	平成28年度	施策主管次長名	子育て健康部次長 林 晴義	
施策番号	70	施策名	地域で青少年を支えるまち		総合計画掲載頁	116
関係課名	子育て支援課、教育行政課					

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	・市民 ・児童 ・青少年	対象指標名		単位	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
			①	人口	人	60,365	60,860	61,154	61,449	62,000
			②	6歳から18歳の人口	人	9,646	9,658	9,455	9,408	-
			③	子ども会加入児童	人	3,370	3,184	3,300	3,500	-
意図	心身ともに健全に成長してもらう				成果指標名	①	青少年補導員月間巡回数			
	②	青少年補導員による年間補導件数								
	③	心の電話相談年間件数								
	④	子ども会の加入率								

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
①	青少年補導員月間巡回数	回	8	8	8	8	8	-
	指標設定の考え方と把握方法	非行防止を目指した取り組みとして設定し、毎週定期的に巡回する回数により把握						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
②	青少年補導員による年間補導件数	件	227	220	228	220	220	-
	指標設定の考え方と把握方法	非行防止を目指した取り組みとして設定し、青少年補導員の補導件数(声掛け程度含む)により把握						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
③	心の電話相談年間件数	件	283	300	314	300	300	-
	指標設定の考え方と把握方法	青少年が心身ともに健やかに育っているかとして設定し、心の電話相談件数により把握						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
④	子ども会の加入率	%	82	84	78	85	90	90
	指標設定の考え方と把握方法	児童が自主性と社会性を高めるために子ども会に加入しているかとして設定し、子ども会加入率で把握						

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	青少年の健全な育成に向けて基本的な役割を担うのは、保護者、家庭であり、地域は青少年の自立を育む交流の機会を提供し、地域ぐるみで健全育成に取り組む。			
	行政	・豊かな心とたくまさを育む教育活動を推進し、地区青少年健全育成団体を支援する。 ・青少年の非行防止として、青少年補導員の街頭補導活動等を中心に地域と協力してパトロール活動などを推進する			
達成度評価	近隣との比較	・青少年補導員を設置しているのは、豊田市(276人、うち地区推薦132人)と本市だけである。豊明市、日進市、東郷町は愛知警察署が委嘱している。補導員の月間巡回回数は、豊田市が月3回、本市はH26年5月から月8回である。 ・本市のH28年度年間補導件数は、228件である。 ・本市が実施している青少年を対象とした電話相談は、近隣市町では実施していない。 ・子ども会の加入率は、刈谷市44.8%、日進市66.6%、豊田市及び東郷町は算出していないが、本市は近隣と比べて高い状況にある。			
	過去3年間の実績との比較	・青少年補導員の年間補導件数は、H25年度163件が、H26年度215件、H27年度227件と増加しており、H28年度は前年度より1件(0.4%)上回っている。これは、H26年5月より週1回の定期巡回を週2回の定期巡回としたことによる。 ・心の電話相談は、H25年度78件、H26年度208件、H27年度283件と増加しており、H28年度は前年度比31件(11.0%)増となっている。なお、無言電話(181件)・相談外(3件)も同様に多い状況である。 ・子ども会加入率は、H25年度84%、H26年度84%、H27年度82%となっており、H28年度は4ポイント減であり、減少傾向である。			
現状と課題	◆インターネットやスマホ等の普及により、青少年の交流範囲は一気に広がっている。一方で交流相手がわからないなど短所もあり、特に青少年本人の自覚がないまま犯罪に巻き込まれたり、いじめにつながるケースが増えてきている。 ◆心の電話相談件数は、H25年まで70件程度で推移していたが、H26年度208件、H27年度283件、H28年度314件、と急激に増加してきている。主な相談内容は、性、男女問題、家族問題、また相談者は男子中高生が多くを占めており、相談員の専門化が求められている。				
今後の取組の方向性及び次年度の取組	◆青少年の非行防止は長期的な展開が重要で、青少年補導員による定期巡回を継続実施するとともに、学校、地域の防犯組織などの関係者と協力して青少年を見守り、指導していく体制の強化を目指す。 ◆子ども会加入率の減少の要因の一つに、子ども会・子育てクラブ活動について転入者への周知不足が考えられ、児童厚生員だより等を活用した会への勧誘や活動の情報発信の徹底するなど加入者の確保を図る。  (30年度の取組) 青少年の非行防止や犯罪に巻き込まれないためには、家庭、学校、地域が一体となった青少年の健全育成の推進が求められる。青少年健全育成推進協議会により、少年の主張大会、青少年の非行・被害防止運動街頭啓発、青少年健全育成推進啓発作品募集、ジュニアクラブ及びびスカウトへの活動支援を推進する。 また、家庭教育力等の問題から家庭学習の習慣が十分に定着しなかったり、学習の遅れがちな中高生に対しみよし未来塾の開設、「学びの森」を活用した教育相談など教育的支援の充実を図り、子ども及び保護者の学習等への不安解消に取り組む。				
市民意識	重要度	高い	満足度	低い	平成28年度市民アンケート調査による